

小川山野猿返し



9P手前辿ったルートを振り返る

期 間：2020年 9月 6日（日）
種 別：マルチピッチルート（ベルニナ山岳会山行）
山 域：小川山野猿返し
参 加 者：平井（ベルニナ）、田辺（ベルニナ）、河本（横須賀）
コースタイム：9：40 廻り目平キャンプ場 10：40 野猿返し取付き 15：25 終了点
16：25 廻り目平キャンプ場

記録 河本

前日の午後からの断続的に降った雨の影響で、岩の状態があまり良くない事が予想された。当日の朝、こういった状況からどのルートをやるか最後まで決めかねていたが、天候が不安定な事を考慮し、普段ベルニナ山岳会で行きなれている野猿返しに行くこととなった。関さんの情報では、難易度はあまりないが、高度感があって楽しいルートだという説明があった。関さんが楽しいと思うルートは、きっと自分にとって恐ろしいルートなんだろうな。これは覚悟をしなければならないなとこの時思った。

アプローチに時間がかからない為、朝はそれほど早く出なくても良い。9：40 廻り目平キャンプ場を出発。前日、東股沢に向かう林道が車両通行止になっていたのを確認していたので、取付きまでは徒歩と思っていたが、この日は運良くゲートが開い

ていた。車で林道を 10 分程進み適当な所に駐車。東股沢を渡渉して野猿返しに取り付くのだが、沢を渡る時に平井さんが4頭の愛犬を連れてくる事に気が付く。「平井さんどこまでお見送りにきてくれるのかな。帰り一人で大丈夫なのかな。」などと思っていたら、取付きまで一緒に来てくれた。ここで鎌田さんより、パーティーの振り分けを伝えられる。鎌田、関、工藤パーティーと田辺、平井、河本パーティーという事だった。まさか平井さんも一緒に登るとは思わなかった。愛犬は幕を用意してあったのでそこにデポ。犬連れ登山は良く聞かすが、犬連れクライミングをしている人はそうそういない筈。のっけから度肝を抜かれてしまった。

10:40 準備を済ませクライミングを開始。今回はシングルロープの半分のところで中間8の字を結び、リードする者が2方向に振り分けられたザイルを引く。フォローは2人同時登攀という手法を取った。私のパーティーは全ピッチにおいて田辺さんがリードをつとめてくれた。1PはⅢ+。このルートで唯一のアンカーが右上に打ってあったがルートはどうやら左上らしい。前日の雨で湿り気のあるスラブ。Ⅲ+という事だがもう少し難しく感じた。後にトポで確認して分かった事だが、やはり右上のルートもあるとのこと。この場合のグレードは5.9とのこと。2PはⅣ+。は出だしは簡単なフェースを右端の方から。左上に向かっていくクラックをたどればなんて事はなかったのだが、私のビレイの準備が間に合わずここは肩絡みでの確保。ボーツとしていない暇はない。3、4Pは両サイドがスパット切れ落ちたりリッジ通し。慣れた人なら左に野犬返しが臨める絶景ポイントになるのだろうが、私にはその余裕が一切なかった。とにかく踏み外さない様に一步一步確実に進むだけだった。そして核心の5P。1度右へトラバースしフェースに出る。この高度感が何とも怖い。フェースに出たらクラックを使いながら登っていくのだが、なんにしても高度感満点である。強い威圧感を感じた。これで5.7しかないということなので、私はまだまだ修行が足りない。6ピッチ目はリッジ通し。相変わらず高度感が半端ないが、スタンスはしっかりしていた。7P目あまり特筆すべき事はない。ごく簡単な登り。台形岩の上に出た後はコンテニューアスで進んだ。8P目ここも特筆すべきものはないが、平井さんどうも愛犬の事が気になって仕方がない様子。このピッチが終わった時点でザイルを解き先行の鎌田パーティーに追いつくべく、先を急いで行った。9P目はクライムダウン。最終ピッチとなった。ホールドもスタンスもしっかりしているので問題ないのだが、やはりクライムダウンは緊張を強いられる。先程も述べたが平井氏はここをノーザイルで駆け抜けていき愛犬の元へ急いだ。クライムダウンを終え少し登り返した所に、しっかりとした木が立っている。そこに残置の下降点を確認できた。今回は先行の鎌田パーティーが張ってくれたザイルで懸垂下降。終了点に着いたのが15:30頃と記憶している。ここから林道までは歩きなのだが、なかなかの急斜面である。道は不明瞭とは言わないまでも、登山道で見られる様な赤布等は当然ないので、それなりにルートファインディングが必要である。実際私も軽快に降ってゆく田辺さんに追いつく事ができず、皆が通ったルートと違うルートで降ってしまった。なんとなく地形は頭に入っていたので事なきを得たが、山の中では確信をもって先に進めないとほんとにも心細いものである。林道に出た時点で携帯が繋がったので関さんに連絡。落ち合う事ができた。その間皆私を探してくれていたとの事で、大変なご迷惑をお掛けしてしまいました。最終的にキャンプ場に着いたのが16:30と記憶している。

今回の山行は天気が心配であったが、クライミング中はカンカン照り。1P目で湿っていた岩もあつという間に乾いていった。終了点から少し降られたが、クライミング中に降られなくて本当にラッキーであった。野猿返しの全体の印象だが、ルート図の解説によると気楽なクライミング・ピクニックが楽しめるとのことであるが、私にとっては必死で岩にしがみついて何とか完登した感じである。また自分は常にセカンドであったが、ハーケンやアンカーが打たれていないルートに登るのも初めての経験で大変勉強になった。機会があったら今度はリードしてみたいものだが、カムの使い方やそもそものクライミングの技術等、自分のレベルにはまだ見合っていない。とにかく日々精進し続けなければならないと強く思う山行となった。

最後にベルニナ山岳会の皆様へ

今回は小川山に招待頂き誠にありがとうございます御座いました。前日の賑やかなトレーニング、キャンプでは美味しいお酒や料理を振舞って頂き、本当に感謝してもしきれません。また今回もベルニナの皆様から色々な事を習い、学ばせて頂きました。最高に充実した2日間になりました。ありがとうございました。また機会があればお誘い頂ければ幸いです。以上拙い文章で大変恐縮ではございますが、報告とさせていただきます。宜しくお願い申し上げます。



1P目鎌田さんのリード



核心部手前